

海外安全対策情報（バーレーン：2015年10月～12月）

1 社会・治安情勢

現在の治安情勢は概ね落ち着いており、治安の急激な悪化等が懸念されるような状況ではない。また、一般犯罪も少なく、全体としてみれば比較的治安の良い国と考えられる。

しかし、7月以降警察官を狙った爆弾テロが続発し、死傷者が出ていることから、これらのテロに巻き込まれないよう十分注意する必要がある。

また、10月16日（金）、サウジアラビア・東部州のシーア派モスクにおける銃撃テロにより、5名が死亡、9名が負傷した事件では、「イスラム国（ISIL）バーレーン州」が犯行声明を出した。同日、国内2ヶ所のイスラム教シーア派関連施設が銃撃されるという事件が発生し、国内にISILの影響を少なからず受けている者の存在が取りざたされている。

【シーア派過激派の動向】

2011年以降、反政府グループによるデモ活動は、各地で継続しており、また一部の過激化した若者達は、治安部隊と衝突し、火炎瓶や石等の投てきを行い、治安部隊が催涙弾で対処しており、一般人が巻き込まれることは少ないが、引き続き警戒は必要である。このほか、道路上でのタイヤ放火やガレキ放置等による治安を混乱させる動向も継続している。

【ISIL（ダーイッシュ）関係】

5月22日、29日のサウジアラビア、6月26日のクウェートにおいて、シーア派モスクを狙った爆弾テロ事件が発生したことにより、バーレーン治安当局は、国内の全てのモスクについて、警察官を配置、入場者のチェック、礼拝終了ごとのモスクの閉鎖、監視カメラの設置、モスクの自主警備の許可及び警備・救護訓練の実施等の警戒強化を実施している。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 基本的に一般犯罪は少なく、在留邦人が被害に遭うことはまれであるが、殺人、強盗、強姦といった凶悪犯罪の発生は確認されていることから、十分注意した上で、自己防衛に心がける必要がある。

(2) 邦人被害事案

なし

3 テロ・爆弾事件発生状況

(1) 9月30日、ヌエイドラート地区（※バーレーン島東部）において、C4、RDX、TNT等の爆発物約1.5トン及びカラシニコフ銃等が警察により押収された。爆発物を製造・保管していたとして逮捕された数名の容疑者は、イラン革命防衛隊やヒズボラと強いつながりがあるとみられている。

(2) 10月9日（金）午後8時頃、シトラのハイウェイ上において、爆発物様の不審物件2件が相次いで発見され、この処理のため警察が一時周辺を封鎖した。これら不審物件は、いずれも偽物であることが判明し、約1時間後、封鎖は解除されたものの、周辺の交通渋滞は長時間に及んだ。

(3) 10月9日（金）午後9時頃、マナーマ市ジュフェール地区において、警察官を狙った爆弾テロ事件が発生、警察官2名が負傷。

(4) 10月16日（金）午前4時頃、ハマラ地区（※バーレーン島西部）及びドミスタン地区（※バーレーン島西部）において、シーア派宗教施設「マアタム」を狙った銃撃事件が発生し、負傷者はなかったものの、施設の一部が損壊した。

(5) 10月21日（水）、内務省は、ISIL関係者24人（うち16名は逃亡中）を起訴した。

(6) 11月4日（水）、内務省は、複数のテロ組織を摘発し、容疑者47人を逮捕、C4爆薬、TATP爆薬等の高性能爆薬、武器・弾薬等を押収。

(7) 11月6日（金）、サールヒーヤ地区内のシェイフ・サルマン・ハイウェイにおいて、走行中の警察車両を狙った爆発があったが、負傷者なし。

(8) 11月22日（日）、アーリ地区（バーレーン中部）住宅街で爆発音がし、警察特殊部隊による捜索の間、周辺は封鎖されたが、被害等はなかった模様。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

日本人の被害は報告されていない。

5 日本企業の安全に関する諸問題

シーア派地区に立ち入らないこと、またテロの対象となり得るモスク等宗教関連施設や警戒中の警察官、警察車両には近付かないことを徹底するとともに、不特定多数の人々が集まる施設（レストラン、ショッピングモール、ホテル、観光施設、市場等）を訪れる際には、周囲の状況に注意を払い、不審な状況を察知したら、直ちにその場を離れるなど安全確保に十分注意する必要がある。

また2011年の騒擾のように、社会・治安情勢が急激に悪化した場合の対応について、準備しておく必要がある。特に、大使館との連絡手段の確保（緊急連絡網、Eメール、無線機、FMラジオ等）、緊急時の国外退避方法について、日頃から準備と確認をしておくことが重要である。

以 上